生物多様性をめぐる事業・社会活動

―ネイチャー・ポジティブ時代をむかえて―

生物多様性・生物の生存環境への負荷を減らし、自然資本を回復させつつ事業活動を行う「ネイチャー・ポジティブ経営」が、重要なトピックとなってきています。気候変動対策、カーボンニュートラルと並び、自然資本への配慮・対策を経営課題として意識し、着実な企業価値向上につなげるため、あらためて、生物多様性をめぐる諸問題について認識を広める機会が求められます。そこで、政策・アカデミア・企業のそれぞれの取り組みのご紹介と情報共有を通じ、事業・社会活動をめぐる意見交換の契機とするためのフォーラムを開催します。

開催日時 2024/1/22(月) 13:30～17:10

※うち、16:40～17:10は交流会(名刺交換会)。
現地参加の方のみ。

開催方法 ハイブリッド開催

現地会場 京都リサーチパーク 西地区4号館ルーム1

参加費 無料

■ 定員

会場参加50名、オンライン参加80人

対象者
- 環境経営の企画業務に関わっておられる方など
- 最新の要請に従って、自然資本に関する分析や開示に対応したい方
- 自然資本分野の取組みで社内外にむけリーダーシップを発揮する必要のある方
- TNFDの最新動向把握など、自然資本分野の先進的な取組みに関心のある方

■ 詳細・申込

https://krp-biodiversity202401.peatix.com

環境省
自然環境局
生物多様性主流化室長
浜島 直子 氏

京都大学 大学院 農学研究科
生物資源経済学専攻
教授
栗山 浩一 氏

京都大学
東南アジア地域研究研究所
准教授
木村 里子 氏

京都大学 大学院
地球環境学堂
准教授
深町 加津枝 氏

三菱電機株式会社
生産システム本部
環境推進部 次長
北山 二朗 氏

主催：京都リサーチパーク株式会社

協力：京大オリジナル株式会社

●お問い合わせ先

京都リサーチパーク株式会社 イノベーションデザイン部（倉地・杉山）

〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町 134　MAIL: krp-id@krp.co.jp

プログラム

13：30～13：35　開催挨拶

13：35～14：05（質疑応答を含む）　ご講演1：政策動向等解説

「ネイチャー・ポジティブ経済の実現に向けた政策動向」

生物多様性・自然資本の主流化、特にネイチャー・ポジティブ経済の実現に向けた政策動向についてお伝えする。具体的には、施策の方向性と狙い、経済界における動向、国際的な議論・動き、環境省の取組状況、日本国内の政策の検討状況等についてお話する。その上で、企業・学術機関の方々を始めとする地域におけるお取組への期待についても言及する。

▶浜島 直子 氏（環境省 自然環境局 生物多様性主流化室長）

2003年環境省入省。自治体の温暖化対策のご支援、公害健康被害者の補償、東電福島第一原発の除染等に携わる。2020年4月から千葉商科大学准教授（出向）。2022年8月より現職。2022年12月の生物多様性条約締約国会議（COP15）や、2023年4月のG7気候・エネルギー・環境大臣会合にも交渉官として参加。

14：05～14：45（質疑応答を含む）ご講演2：生物多様性×「経済」

「自然の経済価値とネイチャー・ポジティブ経済」

「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されたことで、2030年までに生物多様性の損失を止め、反転させる「ネイチャー・ポジティブ（自然再興）」の実現が求められている。そのためには、自然への投資がもたらす経済効果を評価する必要がある。本講演では、自然の経済価値を評価する手法を紹介するとともに、企業の生物多様性対策への応用例を示すことで、ネイチャー・ポジティブ経済の実現に向けて今後の方向性を検討する。

▶栗山 浩一 氏（京都大学 大学院 農学研究科　生物資源経済学専攻　教授）

1994年京都大学農学研究科修士課程修了。博士（農学）。北海道大学助手、早稲田大学専任講師、同助教授、同教授を経て、2009年より現職。カリフォルニア大学バークレー校客員研究員、環境経済・政策学会会長を歴任。専門は環境経済学、環境評価論。主な著書に『環境経済学をつかむ第四版』有斐閣、『企業経営と環境評価』中央経済社がある。

14：45～15：25（質疑応答を含む）　ご講演3：生物多様性×「産業」

「海洋における生物多様性と産業の共存：バイオロギング、受動的音響観測研究の新たな発展可能性」

海に暮らす生物たちの行動や生態を調査するのは簡単ではありません。しかし、近年では、小型の記録計を動物に装着するバイオロギング、受動的に環境や生物の音を拾う受動的音響観測など、科学技術の進化に伴う調査手法の発展により、海洋大型生物たちの行動や生態の解明が加速しています。これらの研究手法は、環境アセスメントや、生物多様性などのモニタにも利用されるようになってきました。本講演では、欧米等における最新の動向も踏まえて海洋の生物多様性研究と産業利用の広がりについてお話しいたします。

▶木村 里子 氏（京都大学 東南アジア地域研究研究所 准教授）

専門は水中生物音響学。2011年京都大学大学院情報学研究科にて博士号取得。中国、デンマーク、マレーシア、日本沿岸などで、水中の大型生物、主に小型鯨類（イルカ類）を対象とし、生物を定量的に観察する手法の開発および手法を用いた生態解明、環境影響評価に取り組む。2022年より現職。

15：25～16：05（質疑応答を含む）　ご講演4：生物多様性×「社会」

「生物多様性と社会連携」

身近な環境における生物多様性の保全には、保全する場を指定するだけでなく、持続的な自然資源の利用や管理が重要となる。地域固有の土地所有・管理形態を尊重した新たな共同管理も求められる。近年、様々な立場の人々、組織が連携した生物多様性の保全、活用のための活動が展開されるようになった。地域の豊かな生物多様性に貢献している活動事例を紹介するとともに、今後の社会連携のあり方を展望する。

▶深町 加津枝 氏（京都大学 大学院 地球環境学堂 准教授）

京都大学大学院地球環境学堂・准教授。農学博士。主な研究テーマは、京都周辺、琵琶湖湖岸などの里山における人と自然の関係とその変化、景観生態学に基づく地域固有の景観保全、活用の計画のあり方など。生態的な価値と文化的な価値を統合した環境デザインあるいは緑地環境保全のあり方を探求する研究も進めている。

16：05～16：35　ご講演5：先進取り組み企業からの事例紹介

「生物多様性保全の取組み状況の見える化による活動レベルの継続的向上」

三菱電機の事業所における生物多様性保全活動の定着と活動レベルの向上を狙って、191の評価項目から成る生物多様性ガイドラインを2020年3月に策定しました。このガイドラインを活用して各事業所の担当者が評価項目について自己診断することで、活動の強みや課題を含めた活動レベルを定量的に把握できる仕組みを構築しました。本講演では、このガイドラインの内容と事業所の生物多様性保全の取組み事例についてご紹介します。

▶北山 二朗 氏（三菱電機株式会社　生産システム本部　環境推進部　次長）

1993年4月、三菱電機株式会社に入社。以降、2019年3月まで同社生産技術センターならびにコンポーネント製造技術センターに所属し、主として国内外事業所の生産性向上に関わる業務に携わる。2019年4月受配電システム製作所生産システム部長、2021年4月長崎製作所 生産改革推進部長を経て、2023年4月より現職。博士（工学）。

16：35～16：40　事務局からのご案内

16：40～17：10　交流会（名刺交換会）　※現地参加の方のみ